

JICA からの挑戦状

【求む、開発途上国で DX 等を活用した安く簡単なインフラ維持管理】

開発途上国において、道路や橋梁、上水道施設等の基礎的なインフラは、ヒトやモノが移動し、安全で健康的な生活をするために必須の社会的基盤です。仕事や病院に行く、子供たちが学校に通って学ぶ、食料や生活必需品を運ぶ、災害が起きた時に安全に非難する等、日本では当たり前になっていますが、インフラは常に安全に健全に維持する必要がある社会の重要な要素です。

日本でも労働力減少等により、省力(省人)型のインフラ維持管理のニーズが高まっています。開発途上国では、人口が必ず減っているわけではないですが、新規インフラ整備が優先されるため、維持管理の財源が確保されていない、また維持管理経験のある熟練の技術者が少ない(いない)といった課題があります。その結果、十分な維持管理がなされないまま使用されている脆弱なインフラが、多く存在します。

JICA は基礎インフラを安全に健全に使用し続けるために、維持管理に資する財源の確保や技術者の育成に関する支援を行っていますが、成果が出るまで長い時間が必要です。しかし、DX 等の新技術を活用することで、より安価かつ簡易に誰でも維持管理が出来るようになれば、途上国のインフラの維持管理の問題が早期に解決する、もしくは解決のためのハードルが下がることが想定されます。そのため、途上国でのインフラ維持管理が安価もしくは(かつ)簡単になる、インフラ維持管理技術、システム等のアイデアを募集します。